

## 信者の人権を守る二世の会 代表 小嶋希晶

### 「家庭連合二世として生まれて」

信者の人権を守る二世の会の代表をしています。小嶋希晶です。  
本日はシンポジウムに参加していただき誠にありがとうございます。

#### 過熱する報道と、届かない現二世信者の声

家庭連合を激しくバッシングする報道がされ、教会から距離を置いた二世たちの声だけが取り上げられる中で、そうした報道だけが、家庭連合の二世全員の声ではないと伝えたいと思い、シンポジウムを行う運びとなりました。

報道が過熱する中、私はある友人と YouTube をやることになり、雑誌や新聞からの取材にお答えする機会をもらったのですが、教会を肯定するような内容が記事になるということはありませんでした。ある記者の方は「本当に頑張ってみますが、これが取り上げられるかどうかは編集長次第なんです。申し訳ありませんが、取り上げられないかもしれません。」と残念な顔をして、その場を後にしていきました。何時間もかけてお話しした内容が記事になることは一切ありませんでした。

私たちの声が届かないだけでなく、様々な差別や嫌がらせを受けているのも事実です。国会では「早くに解散請求命令が出ないと、合同結婚式を経て生まれた子供たちから、なぜ止めてくれなかったのかとなりかねない」という発言が飛び出し、家庭連合の合同結婚式を経て生まれた私は、なんとも悲しい気持ちになりました。二世という立場を理解して、本当に二世を救おうと思う人であれば、そういった発言は出ないのではないかと思います。

#### 二世が信仰を持つことは洗脳やマインドコントロールで片づけられるほど簡単なことではない

今の日本社会は、マインドコントロールや洗脳という言葉が飛び交い、私たち二世には、教会と距離を置いて被害者として生きるのか、それとも、教会や親を肯定してマインドコントロールされていると言われる続けながら生きるのか、どちらか2択しかないような風潮でした。

ただ、宗教に馴染みのない日本で信仰を保ち続けるということは、容易なことではないと私は言いたいです。適齢期になれば学校に通い、友達のうちにも泊まり、いろんなことを経験していく中で、何か教会の中に良さを見出し、教会を信じようと思えば親についていくし、やっぱり世の中とちょっと違うと思えば、教会を批判する道を選ぶ人もいます。信仰を持ち続けようと思ったことがマインドコントロールや洗脳、ただなんとなくで、生きていけるような容易い道じゃないということを本当に知ってほしいです。

## 韓国人の父と日本人の母の姿を見れば、教会の世界平和の教えは夢物語としか思えなかった

家庭連合の教えの中には国際合同結婚式（祝福結婚式）が行われていますが、歴史的に仲の悪いフランスとイギリスや、日本と韓国という組み合わせのカップルが誕生するというケースもあります。私の両親も、父が韓国人、母が日本人のカップルでした。もちろん、仲の悪い国同士の夫婦だったとしても、幸せに生きている家庭連合の教会員たちは山ほどいるわけですが、私の家族である父と母を見れば、文総裁が掲げる世界平和の一步となるような家庭だと思ったことは、一度もありませんでした。

私の家族だけでも一つになれないのに、どうやって世界が平和になっていくのか、ただの夢物語のように感じていた時期もありました。詳細に言えば、私の父に元々信仰がなく、教会でダメと言われていたお酒を飲んだりしてしていました。父だけを見ても、教会の教えと違うことをしており、教会の教えが合ってるのか、間違ってるのか、そう考えるきっかけでありました。また、母が韓国に嫁いだ時、今よりも韓国と日本は仲の悪い時代でしたので、母が韓国に嫁いで祖母と暮らしながら、様々な苦労があったと聞きました。私は文総裁が大きな夢を掲げて、世界の平和のためにと語る内容と、あまりにも大きなギャップを感じて、どう考えても「教会を信じ、信仰を持つ」という母の人生の選択が間違っていたのではないかと、私は間違って生まれた存在ではないのかと思っていました。それでも、母は信仰を捨てることなく、教会を恨むこともなくて、私は母が洗脳されているんじゃないかと思いました。自分が選んだ人生を自ら否定するのが嫌だから、自暴自棄のようにして教会を信じ続けて、自分の人生を肯定し続けている心の弱い母を、なんとか救わなければいけない、教会に騙されているから、早く救い出さなければいけないと思っていました。

## 韓国の祖母の言葉から人生をかけて為に生きた母の生き方を知る

昨今の報道を聞きながら、私にも教会に反発する時期もあったと思う一方で、私は韓国に留学して祖母と初めて会話した時に、母や教会に対する思いが一変する出来事があったことを思い出します。

初めて祖母の家に訪ねる時、私は一つ決意をしていました。「あなたのせいで、私のお父さんは立派じゃなかったし、あなたが母をいじめたので、母は苦勞したし、私はお父さんもすぐに亡くなってしまったので、私はお父さんから育ててもらえなかったし、あなたのせいで、私の人生幸せじゃなかった」と訴えて、祖母のせいにしようと思っていました。そのために韓国語を一生懸命勉強して、祖母の家にきました。

祖母と会って、祖母は第一声、「あー、本当にあなたがこのお家に訪ねてきてくれて、あなたのお母さんが初めて嫁いだ時を思い出す。あの時は本当に日本を恨んでいて、あなたのお母さんのことをたくさんいじめてしまって、すごく迷惑をかけてしまったんだけど、それでもなぜか私によくしてくれた。本当にあなたのお母さんにたくさん愛されたんだ。本当にあなたのお母さんは素晴らしい人だ。お父さんはちゃんと育てられなかったけど、お母さんは本当に素晴らしい人だったので、あなたみたいな素晴らしい人が生まれたんだね。」と笑顔で語ってきました。その祖母の笑顔を見て、恨み辛みを言おうと決意していた思いは全て消えて、なぜ私の母がそのような人生を選んだのか、教会を恨まず、ために生きるという教えを守り続けてきたのか、こういった疑問が一気に解消されました。そして、私もこの母の

生き様を見て神様を信じるという生き方や、人のために尽くすという生き方がかっこいいものだなと思うようになりました。世界の平和を目指して生きるという傍から見れば、途方もない夢物語を本気で信じて、人生かけて、結婚までして生きている人たちが、私の母だけではなく、実は全世界にたくさんいます。そういう母の生き方に触れてしまったせいで、私もフィリピンの人と祝福結婚を受けました。最初はなんとしても日本語が通じ、文化が同じ日本人同士で受けたいと母にお願いしていたので、フィリピンの方と紹介された時は断ろうと思ったのですが、電話したり、交流を深めていく中で、韓国や日本にないフィリピンにしかない文化や考え方、歴史を学びながら、私にはない世界観を教えてくれる相手の人だと思い、祝福を受けるようになりました。もう少しすれば、日本に来るので、母と同じように素晴らしい、幸せな家庭を築いていきたいと思っています。

### **世界平和を本当に実現できる教会へ**

私たち教会の教えは、よく世界平和と言うのですが、それは全人類を家庭連合の教会員にしようという理想ではありません。悲しい人、苦しんでいる人、不幸な人が一人もいなくなる世界、もっと言えば、人を幸せにしようという宗教の役割すら必要ではなくなる。そういう世界を私たちは目指しています。

そうした理想に反して、家庭連合によって傷ついた人がいるという現実は、深く受け止めなければいけないと思いますし、反省しなければいけないと思っています。

今、家庭連合では教会改革が進められています。本来の理想に根差した教会になっていけるようにと私たちは願っています。世の中の人たちにも、家庭連合はそういった素晴らしい教会になれると信じてもらいたいです。

最後になりますが、改めてお伝えしたいことがあります。私は、教会や親の被害者ではありません。一度しかない、自分自身の人生をどのように生きようかと、必死で考えて、自分の意志で信仰を持つことを選びました。家庭連合の教えに触れて、私の人生の選択の幅と考え方が広がりました。家庭連合の教えに触れて、母の人生を知ることができて、とても感謝しています。家庭連合の二世として合同結婚式を通して生まれたことに心から感謝しています。

以上で、基調講演を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。